

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成25年10月3日(2013.10.3)

【公表番号】特表2010-512749(P2010-512749A)

【公表日】平成22年4月30日(2010.4.30)

【年通号数】公開・登録公報2010-017

【出願番号】特願2009-541401(P2009-541401)

【国際特許分類】

C 1 2 N	15/09	(2006.01)
C 0 7 K	16/28	(2006.01)
C 1 2 P	21/02	(2006.01)
A 6 1 K	39/395	(2006.01)
A 6 1 P	9/00	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
A 6 1 P	37/02	(2006.01)
A 6 1 P	37/06	(2006.01)
A 6 1 P	29/00	(2006.01)
C 1 2 N	1/21	(2006.01)
C 1 2 N	5/10	(2006.01)

【F I】

C 1 2 N	15/00	Z N A A
C 0 7 K	16/28	
C 1 2 P	21/02	C
A 6 1 K	39/395	N
A 6 1 P	9/00	
A 6 1 P	35/00	
A 6 1 P	37/02	
A 6 1 P	37/06	
A 6 1 P	29/00	
C 1 2 N	1/21	
C 1 2 N	5/00	B

【誤訳訂正書】

【提出日】平成25年8月19日(2013.8.19)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0018

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0018】

第二の局面において、本発明は、本発明の抗体または抗原結合部分をコードする核酸分子を提供する。該抗体をコードする本発明の核酸を保持する組換え発現ベクター、およびそのようなベクターが導入された宿主細胞も本発明に包含され、本発明の宿主細胞を培養することにより本発明の抗体を作製する方法もまた同様である。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0084

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0084】

実施例

実施例1. ヒトDII4に対するヒト抗体の生成

当技術分野において公知の任意の方法によって、マウスを免疫してもよい（例えば、HarrowおよびLane前記を参照のこと）。一つの態様において、免疫反応を刺激するためのアジュバントと共に、ヒトIg重鎖可変領域および 軽鎖可変領域をコードするDNA遺伝子座を含むVELOCIMMUNE（登録商標）マウスにhDII4抗原を直接投与する。そのようなアジュバントは、完全および不完全Freundアジュバント、MPL+TDMアジュバントシステム（Sigma）、またはRIBI（ムラミルジペプチド）（O'Hagan 2000 Vaccine Adjuvant, Humana Pressによる、Totawa, NJを参照のこと）を含む。標準的な抗原特異的免疫アッセイによって、抗体免疫反応をモニタリングする。所望の免疫反応が達成される際に、抗体を発現しているB細胞を収集し、それらの生存力を維持するためにマウスのミエローマ細胞と融合し、ハイブリドーマ細胞株を形成した。以下に記載されるアッセイを使用して、抗原特異的抗体を產生する細胞株を同定するために、そのようなハイブリドーマ細胞株をスクリーニングし、かつ選択する。

【誤訛訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0085

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0085】

あるいは、フローサイトメトリーによって、抗原特異的ハイブリドーマ細胞を単離してもよい。簡単に言うと、ミエローマ細胞への融合の後、プールされたハイブリドーマ細胞をHAT培養液中で10日間増殖させた。続いて細胞を収集し、かつ2 mg/mlのビオチン標識されたDII4を用いて一時間染色し、続いてフィコエリスリン-ストレプトアビジンを添加した。蛍光標識された細胞をフローサイトメトリーによって分類し（ハイブリドーマ増殖培養液を含む96ウェルプレート中、ウェル当たり1個の細胞）、8~10日間培養し、以下に記載されるように、条件培養液（conditioned media）を、機能的に望ましいモノクローナル抗体の存在に関してスクリーニングした。

【誤訛訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0086

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0086】

脾細胞の直接単離を介して生成された抗hDII4抗体

米国特許公開第2007/0280945A1号に記載されるように、抗原特異的抗体はまた、ミエローマ細胞への融合を伴わずに、抗原免疫されたB細胞から直接単離してもよい。単離された適切な組換え体から、安定な組換え抗体発現CHO細胞株を確立した。